

## 6 被爆体験証言活動などの充実

### (1) 現状と課題

#### 被爆者の高齢化

全国の被爆者健康手帳保持者は平成 18 年(2006 年)3 月 31 日現在 259,556 人、平均年齢は 73.9 歳に達している。その内広島市在住の手帳保持者は 80,509 人、平均年齢は 73.5 歳で、昭和 50 年度(1975 年度)末の 114,542 人をピークに減少の一途をたどっており、全国でも同様の傾向にある。

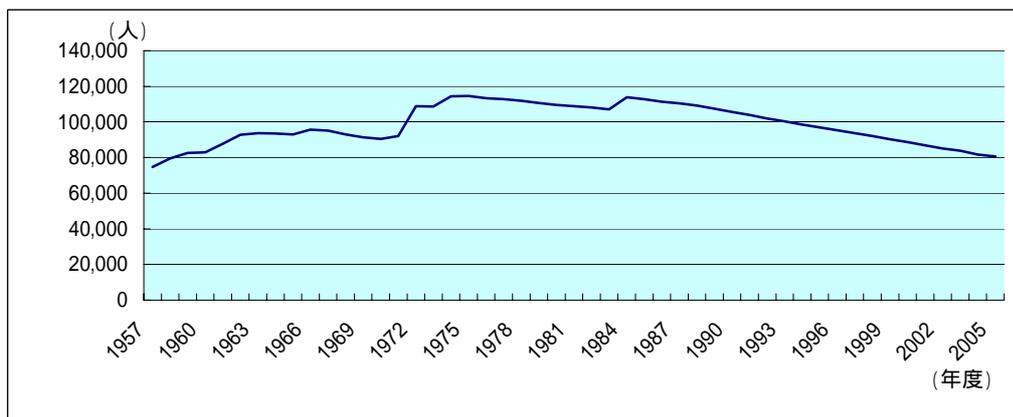


図 14 広島市内の被爆者健康手帳保持者数の推移 (各年度の 3 月 31 日現在)

#### 被爆体験証言活動の状況

平成 18 年(2006 年)4 月 1 日現在、市内には 17 の被爆体験証言者団体 (財団法人広島平和文化センターを含む) が活動しているが、構成員の高齢化により、運営や活動そのものが困難になっている団体もある。

被爆体験証言活動の回数は下図のとおり、年間二千数百件にのぼり、全体として年々増加傾向にある。これに応じて証言者の負担も大きくなっている。

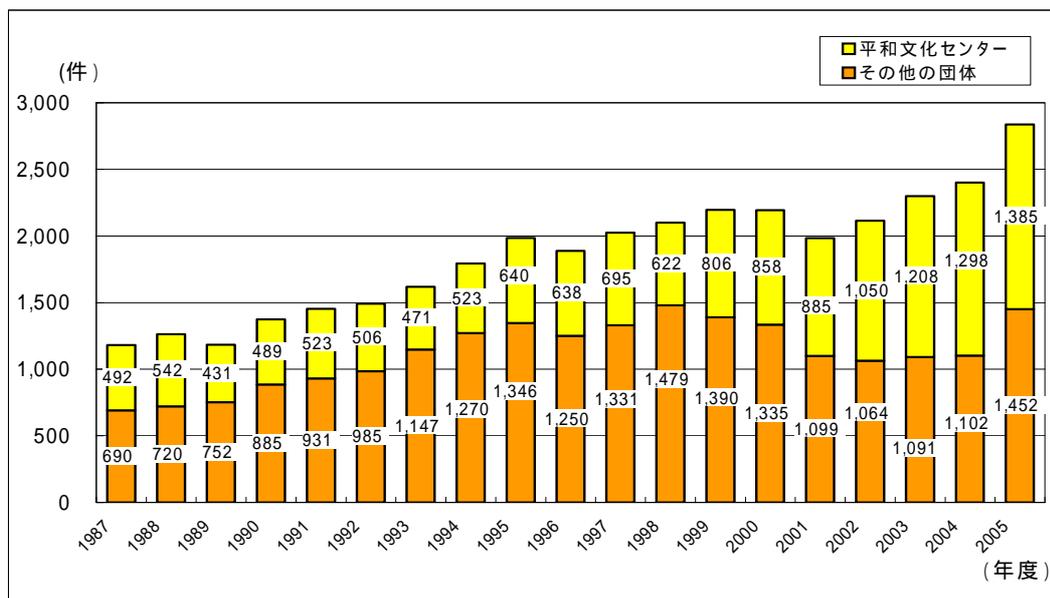


図 15 被爆体験証言活動の実施状況

## 受講団体の受入態勢

財団法人広島平和文化センターでは受講団体数の増加に応じ、証言会場は、平和記念資料館を中心に国立追悼平和祈念館や国際会議場などを利用している。5月、10月は、受講希望が多いため、平和記念公園から離れた施設も利用しており、証言会場の確保が困難な時期もある。

## (2) 支援と新たな取組み

### 被爆体験証言者の確保と被爆体験証言活動への支援

被爆者の高齢化という厳しい状況の中で、被爆体験証言者の確保は緊急の課題として取り組む。併せて、被爆当時の状況がイメージとして具体的に伝わるよう、被災写真や原爆の絵などを提供し、証言がしやすくなるよう支援する。また、広島市立大学の芸術学部などとも連携し、証言内容を聞いた学生が絵を制作し、これを証言する際の手段として活用してもらう。学生によるこの活動は、被爆体験の継承にもつながる取組みである。さらに、受講者が遠隔地においても実施が可能となるよう、テレビ会議システムの導入などについて検討する。

被爆体験証言者同士や被爆体験証言者団体相互の関係についても、交流を図るための支援や協力を行うとともに、被爆体験証言活動を支えるボランティアの育成なども将来的な課題として検討する。



写真 21 写真や地図を使っでの被爆体験証言

### 被爆体験証言の収集・保存・活用の充実

被爆者証言ビデオや市民が描いた原爆の絵、被爆体験記などの被爆体験証言の収集・保存・活用は、今後も充実を図る。収集・保存は、被爆者の平均年齢が70歳代となった現在、緊急性の高い事業である。

被爆者証言ビデオの収録に際しては、カメラに向かって語る従来の方法に加え、被爆体験証言活動を記録として残すため、被爆体験証言者が児童・生徒を前に証言している情景も撮影する。

被爆体験証言は悲惨な体験をした被爆者の生の声であり、今後も展示での活用や団体などへの証言ビデオの貸出し、ホームページでの証言ビデオの公開など積極的な活用を図るとともに、実物、写真、映像などの資料と照合するなど、被爆体験証言に関する調査・研究を進め、活用の場を広げていく。

区分	数量	備考
被爆者証言ビデオ	910本	1人約20分 昭和61年度(1986年度)～平成17年度(2005年度)制作
市民が描いた原爆の絵	3,563枚	昭和49、50年(1974、1975年)収集分 2,225枚 平成14年(2002年)収集分 1,338枚
被爆体験記	1,037冊	図書名ごとの件数

表4 被爆体験証言の収集・保存状況[平成18年(2006年)3月31日現在]

### 受講機会の拡充

被爆者の高齢化により、広島市内の学校や地域・家庭などにおいても被爆体験を聞く機会は減少している。このため、平和記念資料館周辺の公共施設などとの連携による被爆体験証言会場の確保、個人・グループの来館者に対する被爆体験証言を聞く会の開催、企業の社員研修、地域で行われる平和学習などへの被爆体験証言者の派遣など、被爆者から直接に被爆体験証言を聞くことができる機会を積極的に提供する。



写真22 被爆体験証言を聞く児童[東館地下会議室(1)]

### 被爆体験継承のための新たな取組み

被爆体験継承を行うに当たっては、まず、被爆を体験した世代と体験していない世代との間で体験の共有化を図り、それをさらに次の世代へ語り継いでいく必要がある。近年、この取組みの一つとして被爆二世へ語り継ぐ運動が行われている。

また、平和記念資料館及び国立追悼平和祈念館では、被爆体験継承のために次のとおり新たな取組みを行っている。

#### ア ピースボランティア

平成 11 年度(1999 年度)から平和記念資料館内の展示解説や慰霊碑めぐりの案内を行っている。平成 18 年(2006 年)4 月 1 日現在 181 人が登録しており、各自月 2 回活動に参加している。

#### イ 中・高校生ピースクラブ

平和記念資料館では、被爆体験を学び平和の担い手となる若い世代を育成するために、市内の中・高校生を対象に中・高校生ピースクラブを開催している。

#### ウ 被爆体験記朗読会

国立追悼平和祈念館では、平成 16 年度(2004 年度)から、被爆体験記の朗読ボランティアを養成し、朗読会を開催している。平成 18 年(2006 年)3 月末までに 95 回朗読会を行った。平成 18 年(2006 年)4 月 1 日現在 65 人のボランティアが登録している。また、誰もが朗読会を開催できるよう、被爆体験記の朗読セット(実施のマニュアル、原爆被害の概要をまとめたビデオ、朗読用の体験記など)の貸出しも行っている。

今後、これらの取組みを一層充実させ、被爆体験継承の担い手を育成するとともに、それらの人々の自主的な活動を支援していく。また、その成果などを検証しながら、さらに新しい取組みを検討していく。



写真 23 展示解説をするピースボランティア  
(左から 3 人目)[東館 3 階展示室]